

新国立劇場 開場 20 周年記念 2017/2018 シーズン

赤道の下のマクベス

Macbeth on the Equator

作・演出◎鄭義信

出演◎池内博之 浅野雅博 尾上寛之 丸山厚人 平田 満
木津誠之 チョウ ヨンホ 岩男海史 中西良介

2018年3月6日(火)~25日(日)

新国立劇場 小劇場

鄭義信、伝説の三部作に新たな四作目が加わる！



【1月20日(土) 10:00チケット前売り開始 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 尾崎 悠

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

E-mail: ozaki_y1019@nntt.jac.go.jp

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 伊澤雅子 永田聖子

TEL: 03-5352-5736



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

鄭義信の日本初演作品

戦争とは、国家とは.....BC級戦犯として収容された日本人と朝鮮人の物語

鄭義信が新国立劇場に書き下ろした、1950～1970年代にかけて戦後の影の日本史を描いた三部作『たとえば野に咲く花のように』『パーマ屋スマレ』『焼肉ドラゴン』に遡る第四弾。

今回の舞台は、1947年、シンガポール、チャンギ刑務所。第二次世界大戦のBC級戦犯として収容されていた日本人と元日本人だった朝鮮人たちの物語です。捕虜への暴力や住民の殺害などの残虐行為の命令者・実行者がBC級戦犯の対象となり、そこには日本軍人だけではなく、朝鮮人や台湾人の捕虜監視員もいました。

収監された死刑囚たちは、死刑宣告を待つぎりぎりの精神状態の中にありました。命令した者が赦され、実際に手を下した者が裁かれるのか、加害者であり、また一方では被害者ともなる自らの立場に対する葛藤のはざまで、悩み苦しみながらも「生きる」ことを全うした人間たちの姿を描いています。過去の戦争の影が登場人物から透けて見えた三部作からさらに踏み込んだ、作家鄭義信にとって新境地となる作品です。

本作は、2010年、韓国ソウルの明洞芸術劇場で、鄭義信書き下ろし、ソン・ジンチェック演出で韓国語にて初演され、北京公演も行いました。今回は新国立劇場上演にあたって大幅に改訂、日本初演でお届けします。

いつも庶民の側から温かくも鋭いまなざしで大きな世界を描く熱い鄭義信ワールド。

戦争とは、国家とは.....鄭義信が新たに描く「記録する演劇」にどうぞご期待ください。

◎あらすじ

1947年夏、シンガポール、チャンギ刑務所。

死刑囚が収容される監獄・Pホールは、演劇にあこがれ、ぼろぼろになるまでシェイクスピアの『マクベス』を読んでいた朴南星(パク・ナムソン)、戦犯となった自分の身を嘆いてはめそめそ泣く李文平(イ・ムンピョン)、一度無罪で釈放されたにも関わらず、再び捕まり二度目の死刑判決を受けるはめになった金春吉(キム・チュンギル)など朝鮮人の元捕虜監視員と、元日本軍人の山形や黒田、小西など、複雑なメンバーで構成されていた。

BC級戦犯である彼らは、わずかばかりの食料に腹をすかし、時には看守からのリンチを受け、肉体的にも精神的にも熾烈極まる日々を送っていた。

ただただ死刑執行を待つ日々.....そして、ついにその日が訪れた時.....。

◎作・演出家プロフィール

鄭義信 (CHONG Wishing)

1993年に『ザ・寺山』で第38回岸田國士戯曲賞受賞。その一方、映画に進出して、同年『月はどっちに出ている』の脚本で毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第一回菊島隆三賞、アジア太平洋映画祭最優秀脚本賞など数々の賞を受賞した。新国立劇場では『たとえば野に咲く花のように』『アジア温泉』の作、『焼肉ドラゴン』『パーマ屋スマイル』の作・演出を務め、初演の『焼肉ドラゴン』で、第16回読売演劇大賞優秀演出家賞、第12回鶴屋南北戯曲賞、第43回紀伊國屋演劇賞、第59回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。近年では『僕に炎の戦車を』『しゃばけ』『さらば八月の大地』と話題作を生み出している。2014年春、紫綬褒章受賞。

◎出演者プロフィール

朴南星(パク・ナムソン) ◇ 池内博之(いけうち・ひろゆき)



1997年、ドラマ『告白』でデビュー。2004年『罏籠城の七人〜アオドクロ』で初舞台。その後は蜷川幸雄、松尾スズキ、野田秀樹、栗山民也らの作品に次々と出演。ドラマ、映画、演劇、舞台と多ジャンルで活躍。香港映画『イップ・マン 序章』、日中合作映画『スイートハート・チョコレート』など、外国作品への出演も増え、アジアへと活動の場を広げている。最近の主な出演として、舞台『禁断の裸体』、映画『レイルロード・タイガー』、映画『マンハント』など。新国立劇場では『るつぼ』『三文オペラ』に主演。

黒田直次郎◇ 平田 満(ひらた・みつる)



早稲田大学在学中、「つかこうへい事務所」旗揚げに参加。1982年、映画『蒲田行進曲』では第6回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ多数の映画賞を受賞。2001年『ART』と『こんにちは、母さん』で第9回読売演劇大賞最優秀男優賞、14年『失望のむこうがわ』と『海をゆく者』で第49回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。06年に企画プロデュース共同体「アル☆カンパニー」を立ち上げ、精力的に活動中。最近の主な出演として、舞台『荒野野』、映画『光』、テレビ『西郷どん』など。新国立劇場では『こんにちは、母さん』『シュート・ザ・クロウ』『白蟻の巣』に出演。

◎鄭義信からのメッセージ

第二次世界大戦の日本人BC級戦争犯罪の件数と人数は、『戦争犯罪裁判概史要』（法務大臣官房司法法制調査部編刊、1973年）によると、裁判件数は2244件、起訴されたのは5700人、このうち984人が絞首刑や銃殺刑の判決を受けている。この中には朝鮮人と台湾人がいたことは、あまり知られていないだろう。朝鮮人148名、台湾人173名が有罪となり、朝鮮人の死刑者は23人いる。彼らは日本人として断罪された。

朝鮮人BC級戦犯の話はどこから聞いたのか忘れてしまった。けれど、戦後釈放された朝鮮人BC級戦犯の一人が、故郷を訪問した話がずっと頭にこびりついていて。彼は父親の訃報を聞いて、矢も盾もたまらず故郷に駆けつけた。しかし、母親から「おまえが帰ってきたことを知られたら、わたしたちが村の人たちから非難される。家族の迷惑になるから、家には来ないでくれ」と弔問を断られ、泣く泣くまた日本に戻ってきたという。朝鮮人BC級戦犯は韓国では親日協力者の烙印を押され、その家族さえ村八分となっていたのだ。

僕の父も戦時中、憲兵をやっていた。そのため、父の父（つまりは僕の祖父）は村八分となった。祖父は亡くなった後も、村の共同墓地にさえ入れてもらうことができなかった。戦後半世紀経ってから実家を訪ねた父は、朽ち果てた祖父の墓標を目にして、大泣きしたそうだ。それゆえ、朝鮮人BC級戦犯の話はひどく切なく、僕には他人事とは思えなかった。

突き動かされるように、『キムはなぜ裁かれたのか—朝鮮人BC級戦犯の軌跡』の著者である内海愛子さんを訪ね、今もご存命であるというRさんを紹介していただいた。

Rさんは同じくBC級戦犯となった朝鮮人たちといっしょに東京郊外でタクシー会社を興していた。生きていくため、食べていくために、彼らは共同で立ち向かわなくてはならなかった。朝鮮人BC級戦犯の話聞かせてください、と突然に訪問した僕を、Rさんは微塵も拒む様子もなく、笑顔で迎え入れてくれた。ちょうど昼時で出前までとっていただきながら、僕はRさんから話を伺うことができた。その数奇で過酷な運命に、僕はただただ耳を傾けるだけだった。

Rさんは戦争中に強制動員され、映画『戦場にかける橋』で有名な泰緬鉄道（タイとミャンマーを結ぶ約415キロの鉄道）の連合軍捕虜の監視員となった。そこは粗末な衣食住、衣料品不足、過酷な労働、そして、コレラをはじめ伝染病の蔓延と……地獄のような場所であった。そのため、泰緬鉄道に投入された捕虜4万8296人のうち約30パーセントを越える1万6000人が犠牲となった。この捕虜監視の矢面に立たされていたのが、朝鮮人、台湾人たちだったのだ。

Rさんは戦後、BC級戦犯として死刑判決を二度も受けながら、20年に減刑され、戦後27名の朝鮮人戦犯といっしょに巢鴨刑務所に移送された。1956年によく釈放されるも、やはり親日協力者ということで、祖国に帰ることはかなわなかった。名誉回復を求める日本での訴訟は、日韓基本条約による請求権喪失で敗訴した。2006年、韓国政府はRさんたちを日本による強制動員被害者として認定した。しかし、日本政府は名誉回復の要請にいまだに沈黙を守っている。

泰緬鉄道第五分所の監視員だったチョ・ムンサンは1947年2月25日、具体的な物証もないまま、証言だけで行われた裁判で死刑判決を受け、「おれには自分のものはひとつもない」と遺書を残して、死刑台の露と消えた。

Rさんは奇跡的に助かったと言えるだろう。しかし、死んでいった者たちにも、生き残った者もたちにも、歴史は厳しい試練を課した。

忘れ去られ、消え去ろうとする彼ら朝鮮人BC級戦犯の苦しみ、かなしみ、痛みをほんのひと握りでも掬いとることができたらと思う。そして、過去を振り返ることで、日本と韓国の未来について、ほんのひと握りでも考える手立てになればとも思っている。

◎公演概要

【タイトル】 赤道の下のマクベス (Macbeth on the Equator)

【スタッフ】

作・演出 鄭義信

美術 池田ともゆき / 照明 笠原俊幸 / 音楽 久米大作 / 音響 福澤裕之
 衣裳 半田悦子 / ヘアメイク 川端富生 / 擬闘 栗原直樹 / 演出助手 城田美樹
 舞台監督 北条 孝

芸術監督 宮田慶子

主催 新国立劇場

【キャスト】

池内博之 浅野雅博 尾上寛之 丸山厚人 平田 満

木津誠之 チョウ ヨンホ 岩男海史 中西良介

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2018年3月6日(火)～25日(日)

2018年 3月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水祝	22 木	23 金	24 土	25 日	
13:00			●	●	●	●	休 演	●	★	●		貸切	●	休 演	●	●	●		●	●	
18:00													●							●	
18:30	●	●										●								●	

★＝終演後、シアタートーク ※3/17(土)は貸切ですが、Z席の販売はございます。

【前売開始】 2018年1月20日(土)10:00～

【料金】 料金：A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。